

第 53 回 戦没・殉職船員追悼式 平和の海を希求し鎮魂の祈り
安らかに ねむれわが友よ 波静かなれ とこしえに

5 月 14 日、神奈川県横須賀市の神奈川県立観音崎公園内にある「戦没船員の碑」前で、公益財団法人日本殉職船員顕彰会（池田潤一郎会長）が主催する第 53 回戦没・殉職船員追悼式がしめやかに執り行われた。観音崎公園に建立されている「戦没船員の碑」には、先の大戦で尊い命を奪われた戦没船員と、海上での事故や災害で殉職された船員の御霊が祀られている。追悼式には遺族や海事関係者など約 450 人が参列し、全日本海員組合からは松浦満晴組合長をはじめ多くの執行部が、また全国海友婦人会からは酒井智代子会長が参列し、海で戦没・殉職した船員の鎮魂と海の平和を祈った。

追悼式は穏やかな晴天の中、開式 30 分前の午前 10 時 30 分、会場が参列者で埋まると同時に、海上自衛隊横須賀音楽隊の前奏が行われ、会場を安らかな音色で包み込んだ。

定刻の 11 時に公益財団法人日本殉職船員顕彰会の岡本永興常務理事の進行で追悼式が始まり、国歌斉唱の後「安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ とこしえに」と刻まれた碑文石の前で、参列者全員が 1 分間の黙とうをささげた。

主催者を代表して、池田潤一郎会長は「先の大戦で、物資などの輸送に従事し、戦禍の犠牲となった戦没船員 6 万 643 人と、海難などにより殉職された船員 2977 人の尊い御霊が、安らかに眠っている。今日、幾多の困難を克服し、海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、志半ばで海に散った戦没船員と、わが国の復興を支えた、海運・水産業で、不幸にしてその職に殉じられた船員の尊い犠牲とご功績のうえにあることを決して忘れてはならない。ここに改めて、深く哀悼の誠をささげるとともに、かけがえのない家族を失った深い悲しみに耐え、幾多の困難を乗り越えてこられたご遺族の皆さまの労苦と心情に思いをいたし、心から深甚なる敬意を表する。終戦から 81 年、戦争の記憶は年を追って薄れていくが、戦争の悲惨さを次の世代へと継承していかなければならない。私たちは、戦没・殉職船員の御霊の慰霊・顕彰と海洋国家日本の永久の平和と安全を祈念していくことを、ここに誓う。『安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ とこしえに』、参列者とともに、この碑に刻まれた御霊への祈りをささげ、本会を代表しての式辞とする」と述べた。

続いて、内閣総理大臣追悼の辞を佐々木紀国土交通副大臣が代読した後、鎮魂曲が演奏される中、池田潤一郎会長の献花、ご遺族代表の献花に続き、松浦満晴組合長と酒井智代子全国海友婦人会会長が献花し、戦没・殉職船員の碑へ祈りをささげた。

最後に会場の参列者全員が献花した後、能楽「海霊」が奉納され、追悼式は終了した。

「海員だより」